東庭還

(長沼町)





開拓の暮らしと共に育てられた農家庭園

この庭園は、1896(明治 29)年に入植した東重次郎氏が、長い年月 をかけて造り上げたものである。

厳しい環境から暮らしを守るために、屋敷の周囲に配置された防風 植栽は、極めて機能的であり、かつ美しい。冬の北西風を遮るために、 トドマツを主体とした厚みのある樹林を形成し、馬追山を越えて吹き 付ける春の強風には、高さ20mを越えるトドマツの防風林で遮り、 その他はヒバの大刈り込み生垣としている。

庭園内には、百種を超える多彩な樹木が植えられており、それらが 長い年月、丹精を込めて形が作られてきていることに、氏の愛情を見 ることができる。特に高名な庭師が手がけたものではないが、日々の 生活に潤いをもたらしてきた農家庭園として、高く評価される。

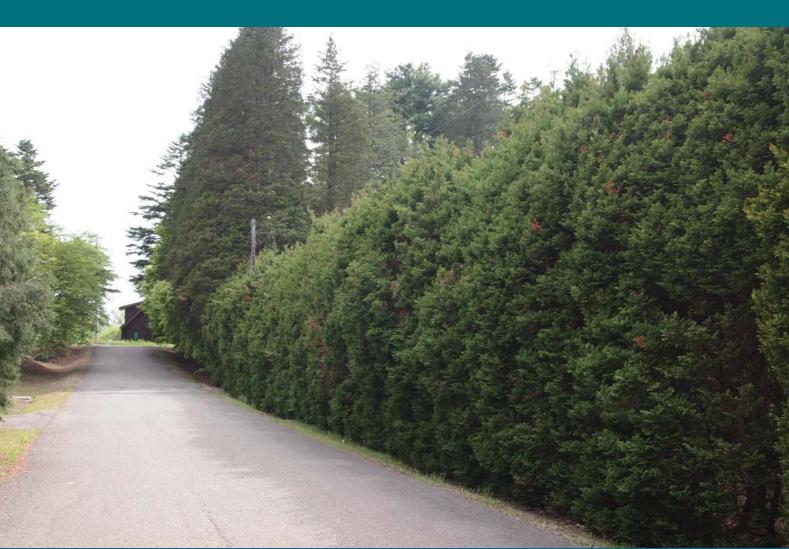


平屋の建物前は、落ち着いた植栽に

概要

名 称	東庭園
所 在 地	長沼町東6線北3番地
管 理 者	長沼町
規模	1.2ha
種別等	庭園
整備年	1896(明治 29) 年~
開設年	1975(昭和 50) 年町に寄贈後公開

1967(昭和 42)年に農林省「家屋屋敷林コンクール」入選



防風植栽とヒバの大刈り込み

公益社団法人日本造園学会北海道支部 Hokkaido Branch, Japanese Institure of Landscape Architecture